

令和5年度小平市立上宿小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

「日常よく使われる敬語を理解している」という項目では、正答率が全国平均より5ポイント高かった。自分の考えを記述する問題について、正答率が低かった。特に、図表やグラフを用いて自分の考えをまとめる問題については、全国平均と比べて、7ポイント低かった。

課題

自分の考えを文章に表すことについて、苦手意識をもつ児童が多い。記述式の問題は3問あって、そのうち無回答が2割を超えている問題もあった。まずは「書くこと」に慣れること、さらに文章の表現の工夫、起承転結の文章の書き方などを身に付ける必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

文章を書く機会を多く設け、書くことに慣れるようにしていく。また、自分が伝えたいことを相手に分かりやすく伝えられるように、書き方のモデルとなる文章を提示しながら指導していく。友達と書いた文章をお互いに見合って助言しながら、自分の文章を見直し、書き直していく過程を大切にしていく。

【算数】

状況の分析

「正方形の意味や性質について」の正答率は、全国平均に比べて6ポイント高かった。学習指導要領の領域で考えると、「数と計算」「図形」「データの活用」の本校の平均正答率は全国平均とほぼ同じ数値であるが、「変化と関係」の領域が全国から4ポイント低い数値となっている。

課題

左の分析にある学習指導要領の領域「変化と関係」は、比例や割合に関する問題である。比例の関係をj用いて、知りたい数量の求め方と答えを記述することや、百分率で表された割合について理解することが課題である。

学校で取り組む具体的な改善策

日常生活の場面において、百分率で表された割合について、具体的な数量の関係に基づいて理解できるようにすることが重要である。授業で提示する問題を解決する際に、示されている数値が「もとにする量は何か。」「比べられる量は何か。」を理解し、数直線や図を用いながら立式できるように指導していく。また、自分の考えを友達に説明することで理解も深まるので、ペアや小グループで説明する機会を設定する。

【質問紙】

状況の分析

課題

「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」の項目では、「よくある・ときどきある」の肯定的な回答が95%であった。「家で計画を立てて勉強していますか」の項目は、肯定的な回答が全国平均よりも12ポイント高かった。一方で、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目は、「そう思う」と答えた回答が全国平均よりも17ポイント低かった。

学校生活の中で、様々な場面で友達の良い所を認め合う雰囲気が「幸せな気持ちで過ごしていること」につながっていると考え、これからもその雰囲気を大切にしていく。課題は「いじめ」についての認識や「いかなる理由があってもいじめはいけないこと」を、一人一人がしっかり理解することである。道徳の授業や普段の指導の中で、繰り返し伝えていく必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

道徳の授業で、いじめについての題材を扱って、いかなる理由があってもいじめはいけないことを理解できるようにしていく。どうして世の中の「いじめ」がなくなるのかという根本的なことを話し合い、一人一人が「いじめをなくすために自分ができることは何か。」を考え行動していけるように指導していく。また、友達の良い所を認め合う、そして言いたいことを言い合える雰囲気は、様々な行事を協力して乗り越えてきたからこそ生まれてきた雰囲気である。互いを信頼し、高め合おうとしている雰囲気をこれからも大切にしていく。